



京急金沢八景駅上りホーム脇に佇む存在感ある瀬戸変電所(撮影・米山淳一)

## 旧湘南電鉄瀬戸変電所保存・活用事業のその後

旧湘南電鉄瀬戸変電所は現在、京急電鉄が所有しています。金沢八景駅の上りホームに隣接している巨大な建物です。建造は、1929年（昭和4）で、1930年（昭和5）に開業した湘南電鉄の本線や逗子線の円滑な電車運行に大いに威力を発揮しました。当時の電車はデ1形。大きな窓を備えたスマートな車体デザインからモダン電車と呼ばれ、人気を博しました。現在は、京急久里浜工場で復元されたデ1形が保存され、後年230形と形式を変更し、改造を加えたデ236号が京急本社一階（横浜市）「京急ミュージアム」に保存展示されています。いわば開業当初から旧湘南電鉄瀬戸変電所で造られた電気で動いていた電車が2両、保存展示されていることとなります。その視点から見ると旧湘南電鉄瀬戸変電所の歴史、文化、技術的価値はますます高まってきます。

当公益社団では、2014年（平成26）から横浜市都市デザイン室と力を合わせて旧湘南電鉄瀬戸変電所の保存、活用に向けた取り組みを開始しております。一時は、解体の危機にあったこの変電所ですが、保存に対し京急電鉄が理解を示し、当公益社団では2017年（平成29）には耐震改修設計に関する専門調査を行うなど、保存、活用に向けた本格的な姿勢で臨んでおります。とにかく地震など何らかの影響で建物が崩壊し、電車の運行を妨げないような対策を施すことが最優先であり、このための耐震調査を2018年度（平成30）にも行いました。

そして2020年度には、崩壊させないための最低限の耐震工事や修理工事に向けた実践的な調査を行い、具体的な工事費用を算出することができました。2021年度は、改修工事に向け、より具体的な手法の確立と費用の確保に向けた戦略を構築いたします。工事費は、広く寄付金を募る予定です。また、変電所のテスト的な活用や見学会等も開催する方向で調整しています。

狭隘の地に建設された変電所であるため、立地条件にあった活用計画に関し専門家の皆さんの的確なご指導もあり、全体のフレームが見えてきました。事業開始以来、来年度で5年目を迎えます。所有者の京急電鉄や事業のパートナーである横浜市都市デザイン室と将来にわたる保存、活用に向けた合意形成を図りながら、じっくりと事業を進めてまいりますので、引き続き会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年3月吉日  
公益社団法人横浜歴史資産調査会  
会長 宮村 忠



# 発電所美術館のダイナミズム(富山県入善町)

写真・文 / 公益社団法人横浜歴史資料調査会常務理事 米山淳一



河岸段丘の上から見た発電所美術館(旧黒部川第二発電所)。水路式発電所の仕組みを今も確認できる。左手は、1992年(平成4)に新築された新黒部川第三発電所。周辺には散居村が広がっている

## ◆はじめに

旧湘南電鉄瀬戸変電所(現京急電鉄)の保存、活用に関して様々な議論を行い、計画を固めつつあります。そんな中、知人から発電所美術館(富山県入善町)が大いに参考になるのでは?とのアドバイスを頂いたのを機に訪ねてみることにになりました。

すでにご存知のとおり、瀬戸変電所は1929年(昭和4)の鉄筋、鉄骨コンクリート造りの建物。既にその役目を終えてはいますが、その存在は近代建築として歴史文化的価値は高く横浜の「歴史を生かしたまちづくり」にとって大切な歴史的資産なのです。保存状態は比較的良好で、内部には大きな空間が広がり、最初に見学した時からロンドンのテムズ川沿いにあるテートモダン(テートギャラリーの分館で現代美術館)をモデルとして活用を考えたいと思っていました。しかし、用途上の様々な問題もあり、悩んでいた矢先に発電所美術館の存在を知ったのです。



(左上)発電所内で活躍していた15tの天井クレーンもそのまま保存。旧湘南電鉄瀬戸変電所の10tと同じ日立製

(左下)3基あった水路式発電用のタービンと発電機一基が保存されていた

(右上)「発電所美術館は入善町の誇り」と管理運営を担当する上田智文さん

## ◆にざやま発電所美術館は下山芸術の森の核施設

発電所美術館へは、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅が最寄り駅。駅は、黒部市にあり、発電所美術館はお隣の入善町にあります。高架線上のホームから東側の入善町方向を見渡すと遠く雪を頂いた朝日岳が青空に映えて見えます。その付け根に横たわる黒部川東側の河岸段丘の裾に広がる田園地帯の一角に発電所群が午後の陽ざしを浴びて輝いていました。辺り一帯は、日本海に向かって緩やかに傾斜する田園です。

発電所群と言ったのは、1992年(平成4)に新築された現役の新黒部川第三発電所と、1925年(大正14)に建造された黒東第三発電所(旧黒部川第二発電所・国登録有形文化財)が、発電所美術館として保存活用され並んでいるからです。

発電所美術館を核に、一帯がアートのスペースとして位置づけられ彫刻広場、河岸段丘上の展望塔、アトリエ、宿泊棟などが新築され、下山芸術の森として運営されていて、アーティストが長期滞在しながら作品制作に打ち込める環境が整っています。運営は、指定管理者の公益財団法人入善町文化振興財団が行っています。管理事務所は、かつての発電所職員詰所を改装して使用し、来訪者の入り口も併設しています。今回、ご案内くださった上田智文さんは他の施設と掛け持ちされ、常駐スタッフがいらっしゃいました。作家による作品展は年に数回行われ、全国各地から来訪者がお越しになるそうです。

訪れた時は、原子炉を模した木製の巨大なサウナ風呂がドーンと展示され、発電所の大空間に相応しいダイナミズムを実感することが出来ました。

## ◆旧黒部川第二発電所を守れ

発電所美術館になっている建物は、約20年前に取り壊しの危機にさらされました。老朽化のため新たな発電所が出来ることで不要になったからです。しかし、当時の柚木春雄町長は、地域の発展に寄与した発電所の取り壊しに反対し、北陸電力に保存を申し出たのです。さらに、発





(上) 3回路ある当時のままの電力ブース  
(左) 美術館となっているダイナミックな空間が広がる発電所建物内部には、栗林隆さんの葉草スチームが発生するインスタレーション「元気炉」が展示されていた(展示は終了)

電所だけでなく背後の河岸段丘の斜面緑地と発電所が織りなす景観は町民みんなの物と北陸電力に訴えたのです。これを北陸電力は優しく受けとめ、入善町に寄贈したとのこと。町の将来に亘るまちづくりに向けた柚木春雄町長の思いが実ったのです。

発電所美術館を核として下山芸術の森を整備して行く段になると、先ずは資金が問題になりました。町議会議員からは反対の意見も多かったのですが、町長が説得を続けて事業予算を確保したのです。国庫補助9千万円、起債3億1千万円(地方交付税対応5.3%)、一般財源1億2千万円だったそうです。

整備にあたっても柚木春雄町長は信念を持って臨み、同じ大正期建造の東京駅赤レンガ駅舎内のステーションギャラリーを範としていました。しかし、発電所内部の壁を白いペンキで塗装されてしまったことに落胆したそうです。当時のまま何もしない壁を生かした展示スペースを主張し続けていただけに断腸の思いだったに違いありません。上田さんから様々な出来事をお聞きできたことで、発電所美術館から多くの物語を感じ取ることができました。

## ◆オールド&ニューの魅力

発電所美術館を堪能した後、平成4年新築の新黒部川第三発電所に向かいました。現役の水路式発電所で鍵の懸かったフェンス越しにブーンと言うタービンの音が聞こえてきました。建物は、発電所美術館に



河岸段丘上には喫茶室、作家用の宿泊施設があり、朝日岳や散居村を見渡せる展望塔もある

なっている旧黒部川第二発電所に合わせ、赤レンガを用いた意匠が洒落ています。平成6年には、通産省のグッドデザインの認定を受けました。新旧の建物をセットで訪れることで発電所の歴史と文化を体感できたような気がしました。

さて、当時からの管理用の約100段の急な階段をやっとの思いで上ると河岸段丘の上に立つことができます。散居が点在する田園の眼下には直径1m強の水路3本が発電所美術館に突き刺さる様に見えます。正に水路式発電の仕掛けそのもの。落差は約2.3m。火力も原子力発電も必要なのでしょうが、水路式発電が最もエコな気がしました。新築の喫茶室、宿泊施設、展望塔も赤レンガ造です。これらが一体となって作り出す景観から入善町のまちづくりに向けた心意気をおおいに感じました。

## 活用を待つレンガの変電所 「旧大阪電気軌道富雄変電所」

生活にかかすことができない電気を供給する施設である発電所や変電所。明治・大正期のレンガ造、昭和になってからの赤レンガやコンクリート造のこれらの歴史的な建造物が文化財指定されている例は多くある。保存されている鉄道施設では、国の重要文化財に指定されている旧碓氷峠鉄道施設群の丸山変電所と熊ノ平変電所が有名だ。保存はされているが活用されている事例はまだ少なく、今回紹介した発電所美術館のほかに、近鉄奈良線の富雄駅前にある「旧大阪電気軌道富雄変電所」があった。

これは近畿日本鉄道(近鉄)の母体である大阪電気軌道が1914年(大正3)頃に建造した4つの変電所のうちのひとつで、唯一現存するもの。東京駅の駅舎と同時期に造られた。近鉄奈良線の輸送力増強に伴い、電圧が変更され変電所としての機能は1969年(昭和44年)に廃止された。その後、再開発や道路拡張などで解体の危機があったが、地元市民、行政、近鉄、マスコミ、日本ナショナルトラストなど多くの人々の尽力で保存され、歴史ある空間を生かし、レストランなどに活用されてきた。

しかし残念ながら現在は空き家となり不動産会社の管理下におかれている。近鉄奈良線富雄駅前で、奈良の近代化を語りかけているレンガ造の重厚な洋風建築が活用される日を待っている。

## ヨコハマヘリテイジの活動報告

### 横浜山手西洋館群の将来にわたる保存活用に向けて

横浜の山手地区は、明治期には居留地として多くの西洋館が建ち並んでいました。関東大震災でほとんどの西洋館が倒壊したものの、その後建設された西洋館や敷地割、樹木やブラフ積みなどが当時の姿を色濃く残し、豊かな歴史的環境が息づいています。しかし、横浜を代表する歴史的環境を末永く維持するには相応の仕組みが必要です。横浜市により取得され保存、活用されている西洋館は7軒ありますが、住居としての西洋館の保存対策は十分ではありません。維持管理や修理に関しての手当てばかりか世代交代が進みつつある中、固定資産税、相続税等の問題もあります。

そこで、当公益社団では役員や識者による作戦会議を行いました。「歴史を生かしたまちづくり要綱」(横浜市)、「重要伝統的建造物群保存制度」(文化庁)、歴史的風致維持向上事業(国交省、農水省)の仕組みを学びながら、山手西洋館群の保存活用に馴染む方策を市民、行政、専門家、当公益社団等が力を合わせて取り組みを考えてまいります。ちなみに開港都市の函館市、神戸市、長崎市の西洋館群は、重要伝統的建造物群保存地区として守られています。(文・米山淳一)



住居として息づいている山手西洋館(写真・米山淳一)

### 令和2年度(2020年度)に、ご寄付して下さいました皆さま、ありがとうございます

(株)三陽物産	1,000,000円
後藤治	60,000円
NPO法人横浜ロケーションコーディネイト	50,000円
(株)エネット	50,000円
多田真太郎	30,000円
ヘリテイジセミナー2020(11月28日開催) 参加者有志	5,600円
森明子	5,000円
RAC2020研究集会(9月27日) 参加者有志	4,950円
熊谷産業	4,000円
歴史を生かしたまちづくりセミナーVo.43(12月5日) 参加者有志	3,000円

3月12日現在(敬称略)

### ◎ヨコハマヘリテイジへの寄附は、税法上の優遇措置が受けられます◎

歴史的資産の保存活動を推進するために、皆様の寄附をお願いしております。ヨコハマヘリテイジへの寄附は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人の場合)、法人税(法人の場合)の控除が受けられます。なお、個人の方からの寄附については、寄附者は確定申告において、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかの適用を選択することができます。

## 『新橋—横浜 鉄道開業150周年に向けて』

2022年10月に日本の鉄道は開業150周年を迎えます。当公益社団では、代表幹事団体を務める日本鉄道保存協会はじめ関係各所と協力し記念事業を予定しています。『新橋—横浜 鉄道開業150周年に向けて』、今回から6回にわたり、6人の方に「港・鉄道・横浜」についてお話を伺います。



### 第1回

横浜開港資料館・  
横浜都市発展記念館  
副館長  
青木祐介氏

### ◎横浜における鉄道開業150周年について 思うことをお聞かせいただけますか

鉄道開業150年。横浜という都市が大きく鉄道とかかわって発展してきたことをあらためて思います。鉄道の開業によって、海の玄関である港に加えて、陸の玄関である鉄道駅が誕生し、鉄道、駅が都市の形成に大きな影響を与えてきました。横浜は、港中心から駅を基点とした都市に姿を変えました。

1872年(明治5)鉄道開業と同時に、現在の桜木町駅の場所に初代横浜駅が開業しました。日本最初の駅です。その後、現在の高島町交差点付近に移り、関東大震災で焼失。さらに1928年(昭和3)に、現在の場所に3代目横浜駅が開業しました。駅が動いたわけです。それぞれの場所に駅が設置されたのには理由がありますが、駅の開業、移動によって都市構造が変わっていきました。戦前の一番の繁華街は伊勢佐木町でしたが、今は横浜駅西口。この間、多くの鉄道が横浜駅に乗り入れ、線路が伸びることで沿線に都市が広がっていきました。その結果、関内地区という港を中心とした都心に加えて、横浜駅を中心とするあらたな都心が加わったのです。その二重構造を解消するために立てられた計画が、現在のみなとみらいの開発でした。

### ◎150周年記念事業をどう生かしていきたいと思われませんか

横浜市ふるさと歴史財団では、関連の横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館などで、それぞれの館の特性を生かし、ファミリー層やコアな鉄道ファンの方々に向けた記念展を開催したいと思っています。昨年、開業時に線路が敷かれた高輪築堤の遺構が発見されました。どう保存されるのかが気になりますが、これは150周年記念の大きな目玉になるのではないのでしょうか。横浜の私たちも、開業区間沿線の博物館施設などと連携して展示内容をすみわけ、各館をまわり、充実した150周年を記念する企画ができればよいのではと思っています。



鉄道開業100周年で記念運転されたSL蒸気機関車・C57 7号機。高島機関区。1972年10月14日(写真・米山淳一)

### 『歴史を生かしたまちづくり相談室』相談受付中!

【お問い合わせおよびご相談はこちらへ】

公益社団法人横浜歴史資産調査会 事務局  
〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室  
TEL/ FAX : 045-651-1730  
E-mail : yh-info@yokohama-heritage.or.jp

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2021年春号】 令和3年3月31日発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会(ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405号室

Tel:045-651-1730 mail:yh-info@yokohama-heritage.or.jp